作業手順書　兼　安全対策書

記入時の確認事項 □にレを入れる事	①作業手順は具体的な作業方法を記入すること。 □	②試運転確認項目についても記載すること。 □
	③安全上の要点、注意点には具体的対策を記入すること。 □	④終了後は本手順書を当社担当者へ提出すること。 □

終了確認		電気主任技術者	承認	審査	起案	施工業者	印
	※電圧400V以上の電気工事等については、電気主任技術者印が必要です。						

件名	作業責任者		工場名		代理店	
	実施期間		ﾗｲﾝ名			

No.	作業手順　＊具体的な作業方法まで記入すること。 （何を使用して（重機、工具等）、何を（対象物）、どうする。）	安全上の要点・注意点（急所）	危険有害要因（予測される危険）	有害性の分類	程度	可能性	評価	危険有害要因の防止対策 及び確認方法（判定基準）	確認者 （左記対策）	ﾁｪｯｸ

備考欄

有害性の分類（以下から選択し、記号を上記記入欄に入れる事）

H：はさまれ・巻き込まれ	T：転倒	B：爆発・破裂・火災	G：激突	J：無理な姿勢・重筋作業
K：切れ・こすれ	D：有害物（化学物質・ガス等）	Y：やけど（高温・低温）	M：おぼれ	
R：飛来・落下	O：転落・墜落	I：感電	C：交通事故	

工事におけるリスクアセスメント

●負傷又は疾病の重篤度（災害の程度）

重篤度 （災害の程度）	災害程度・内容の目安
×：致命傷・重大	・死亡災害や身体の一部に永久的損傷を伴う ・休業災害（1ヶ月以上）、一度に多数の被災者を伴う
△：中程度	・休業災害（1ヶ月未満）、一度に複数の被災者を伴う
○：軽度	・不休災害や、かすり傷程度

●負傷又は疾病の発生の可能性

発生の可能性	内容の目安
×：高いか比較的高い	・毎日頻繁に危険性又は有害性に接近する ・かなりの注意力でも災害につながり、回避困難
△：可能性あり	・危険性又は有害性に時々接近する ・うっかりしていると災害になる
○：ほとんどない	・危険性又は有害性の付近に立ち入ったり、接近することは滅多にない ・通常の状態では災害にならない

●リスク評価

重篤度 可能性	致命傷・重大 ×	中程度 △	軽度 ○
×：高いか比較的高い	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
△：可能性あり	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
○：ほとんどない	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ

●リスク程度

Ⅲ：重大	・安全措置を必ず実施してから作業を行う
Ⅱ：低減措置が望ましい	・安全措置を講じてから作業を行うことが望ましい
Ⅰ：問題なし	・必要に応じて安全措置を実施する